

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	福祉キャリアセンター ProgrammingDay吉島		
○保護者評価実施期間	令和6年12月27日		令和7年1月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	95	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	令和7年1月10日		令和7年1月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個室は2部屋あり、予備部屋も2部屋用意されています。個室希望の児童には最低限ニーズに寄り添った対応をしています。利用が増加しており、重なった場合はニーズに沿った場所で支援している。	活動が固定化しないよう工夫しつつ、極端な変化が不安になる子どもには徐々にステップアップできるプログラムを組んでいる。子どものニーズを細かく確認し、主体性を重視したプログラムを考え、毎回アセスメント結果を活用して新しいプログラムを作成している。	バリアフリーの環境で床マットについても張り替えを行いました。
2	担当児童に良かったことがある人からはその時の様子を共有してもらって、うまく事がなかった人からは事例を基に支援案をいただいて次に繋げています。	子どもの主体性を大切にしながら支援を行い、自己決定が難しい場合は複数の選択肢を提示して本人が選べるように配慮しています。また、やりたいことを主張された場合にはそれを尊重し、押し付けにならないよう努めています。	週1回の定例会議で意見交換や情報共有を行い、それを実際の支援に活かしております。
3	パソコンラボなどを活用して効果的に情報発信しており、問い合わせフォームも活用して新規利用者が問い合わせしやすい環境を整えている。	悩みに耳を傾け、適切な支援内容を提供している。通所が不安定な子どもには訪問を行い、家庭での様子を聞き取りながら、保護者に寄り添って対応している。	支援に役立てるため、詳しい記録を取ることを意識し、記録を書きながら自身の行動を振り返るようにしている。メモが難しい場合は写真を活用して記録を補完している。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別対応を維持する上では職員数が不足している	個別対応が前提の考え方だと、人員に限りがある状況だが、1対2、1対3といった取り組みにも対応できるスキルや仕組みが満足なレベルに届いていない面もある。	長テーブル上で一時的に個別化出来るような器具があると良い
2	この事業所では食べ物を提供していないため、食事に関する対応はしていない。	当事業所で実施されていない提供サービスについては、経験不足が否めない点が考えられる。	一定の保護者しかから意見を聞いていないと感じております。週一回の事業所内会議で話し合います。
3	ヒヤリハットの記録は少ないが、報告ツールがあるため共有はしっかり行われている。再発防止のため、毎週の職員会議で改善策を検討し解決している。	ヒヤリハット事例は少ない方が良い事でもあるが、やはり経験という点では不足してしまう懸念がある。	最近、防災に関する話し合いが進んでいるが、全員に共有する機会がもっと必要だと感じている。安全対策委員会が立ち上がり、災害や感染症が流行している今こそ、積極的に活動すべきだと思っている。